

# 知っておきたいキーワード

## 魅力とかわいさ

藏口佳奈†

† 四天王寺大学 人文社会学部

"Attractiveness and Cuteness" by Kana Kuraguchi (Faculty of Humanities and Social Sciences, Shitennoji University, Osaka)

キーワード：顔、ベビースキーマ、平均性、左右対称性、性的二型性、WebMorph

### まえがき

近年、他者の外見に基づく評価や偏見をルッキズム（外見至上主義）と呼び忌避する風潮があります。これは社会的な課題であると同時に、われわれ

が日常的に他者の外見的魅力を判断し、無関係な別の評価とも結びつけてしまう心理的傾向を有していることも示しています。このように社会生活上も看過できない影響をもつ外見的魅力は、主に顔魅力の影響を強く受けるこ

とが知られています。本稿では、顔の外見的魅力を「魅力的な顔」と「かわいい顔」に分けて捉え、各評価次元に関連する形態的な特徴と、その検証方法の一端を解説します。

### 魅力的な顔とは

成人顔の魅力研究では、魅力 (attractiveness) と美しさ (beauty) は換言可能なものとして扱われやすく、顔の魅力 (美しさ) の代表的な要因としては、平均性、左右対称性、性的二型性を挙げることができます<sup>1)</sup>。複数の異なる人々の顔を合成し作成した平均顔は、平均化する前の個々の顔よりも魅力的であると評価されやすくなります (図1 (a))。また、左右対称性の高い顔も、より魅力的であると評価されやすいことが知られています。進化心理学的観点では、平均性の高さは環境へ

の適応度の高さを、左右対称性の高さは免疫機能の高さを示す指標として機能していると考えられます。そのため、これらの特徴を有する顔を魅力的とするのは、配偶選択における適応的な行動であると解釈されます。一方で、平均性・左右対称性の高さは、形としての複雑さに乏しいために知覚的な処理を行いやすく (知覚的流暢性が高く)、選好されやすいとする考え方もあります。平均性や左右対称性が魅力評価に及ぼす影響は、顔の性別を問わず示されているのに対し、性的二型性は顔の性別によって異なることが知られています。性的二型性とは、性別によって

その性別らしい特徴・形質を備えることを指します (図1 (b))。女性顔では、女性らしい特徴を強調する方向に形態的特徴を変化させると、より魅力的であると評価されることが知られています。しかし、男性顔では男性らしさを強調した顔への評価は一定ではありません。これは男性性の高さが支配性の高さと結びつき、長期的な関係性構築に不向きな印象を与えることで、配偶選択におけるアンビバレントな情報を提供するためと考えられています。

☞

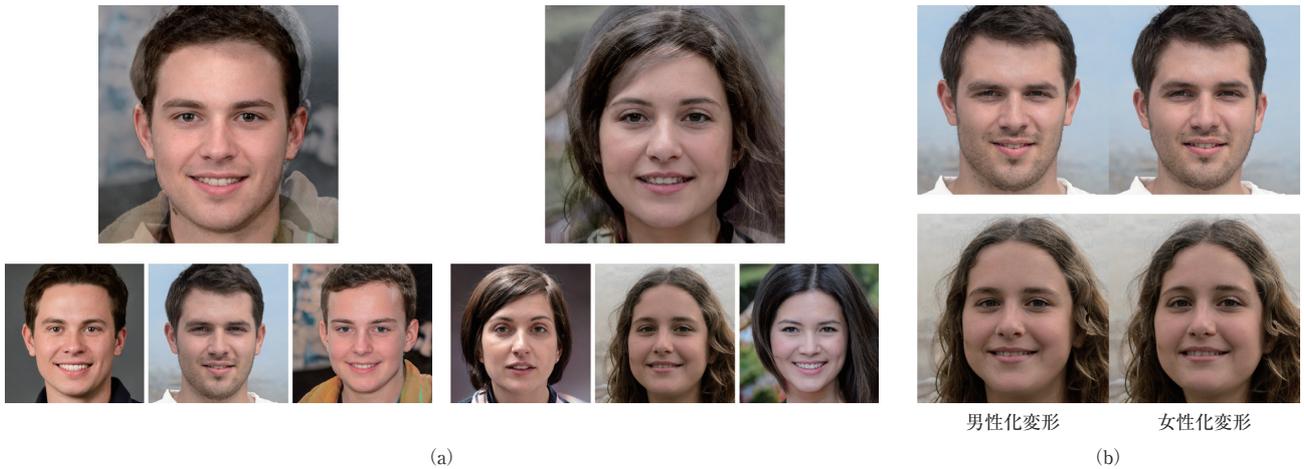


図1 (a) 平均顔の例。上段の顔画像は、下段の顔画像3枚の平均顔。(b) 性的二型性に沿った生成顔画像の例。左側は男性化変形、右側は女性化変形を示す(なお、本稿で示した顔画像はすべて、AIが生成した実在しない人物の顔画像を用いている)。

### かわいい顔とは

「かわいい (cute)」という評価語は、特に海外の文献においては、乳幼児に対して用いることが一般的とされます。これは、かわいさの評価が、ベブスキーマ (Kindchenschema) と密接に関連することに由来します。ベブスキーマとは、大きい目、小さい口、広い額、小さい顎、丸い頬といった一連の身体的特徴 (ベブスキーマ特徴) に対して、よりかわいいと感じることや養育反応が喚起される仕組みを指します。実際にベブスキーマ特徴が顕著にみられる顔・強調した顔は、よりかわいいと評価されることや、より長く見ていたいと感じられることなどがさまざまな先行研究で繰り返し示されています。図2は成人顔のかわいさを操作したのですが、左側の顔画像の方がベブスキーマ特徴が顕著であるのが見て取れるかと思います。ベブスキーマという名前から未熟さや幼さと同じ視してしまうかもしれませんが、低体重や早産の乳児はあまりかわいくないとされることからわかるように、実際にはベブスキーマ特

徴と未熟さ・幼さは完全に同一とは言えません。つまり、かわいさの評価は未熟さ・幼さの知覚と切り分ける必要があると言えます。こうした背景も踏まえ、近年では、かわいさは養育行動

にとどまらない社会的関与を動機づける可能性も指摘されており、成人顔における評価次元としても機能する可能性があります<sup>2)</sup>。

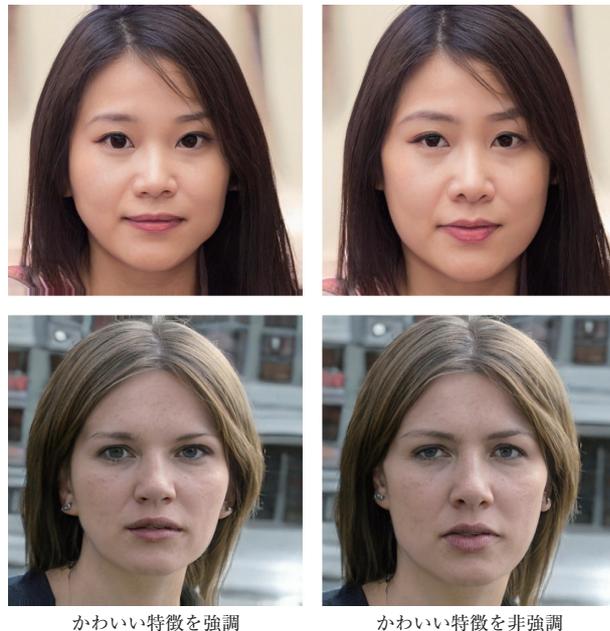


図2 かわいさを操作した顔画像の例

### 顔の魅力・かわいさの検証で 用いられる画像作成方法

前述のような顔特徴と魅力・かわいさ評価の関連は、顔画像に対する評定課題、2肢強制選択課題、視線計測課題等の心理学実験によって検証されてきました。その際、撮影したままの顔写真だけでなく合成顔を使用することもあります。個別の顔特徴が評価に及ぼす影響を直接的に検証するためには、顔画像の加工技術が必要とされます。Psychomorphなど、顔画像の加工に特化したソフトも開発されており、研究用の顔画像生成にはこうしたソフトを利用することができます<sup>3) 4)</sup>。図3はWebMorphにおける顔の特徴点の定義場面を切り出したものですが<sup>4)</sup>、このように合成に用いるすべての顔の個々の特徴(目、鼻、口、輪郭など)に対して複数の特徴点の座標を定義する必要があります。また別のアプローチとして、個人的に「魅力的」と判断

する顔を機械学習によって生成する試みもあります<sup>5)</sup>。これは、顔特徴を個別に操作するわけではありませんが、

われわれが漠然とイメージする「魅力的な顔」や「かわいい顔」を具現化できる可能性を秘めています。

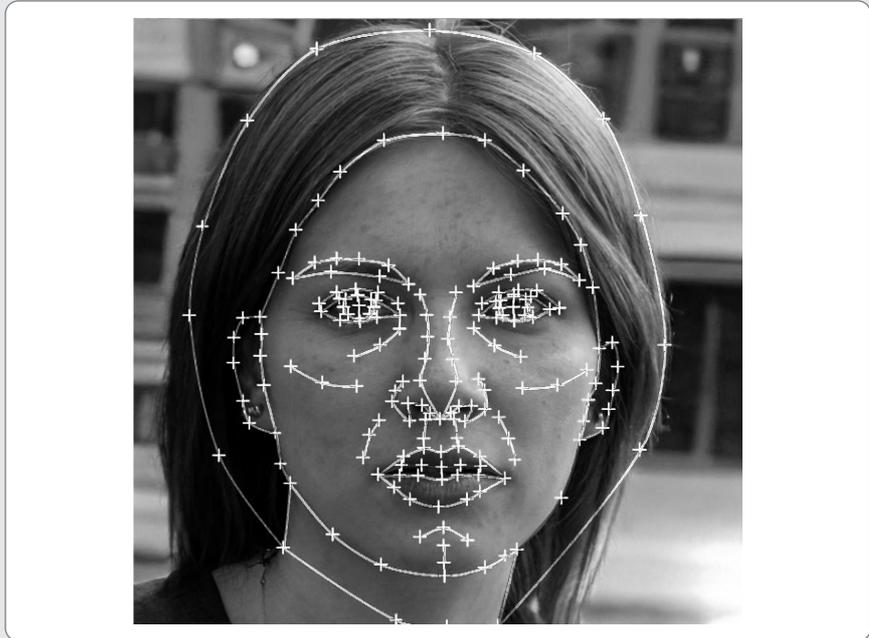


図3 顔画像の特徴点の定義場面 (WebMorph使用時の画面例<sup>4)</sup>)

### むすび

本稿では、顔の魅力評価とかわいさ評価に寄与する主要な顔特徴について、研究背景と検証方法を踏まえて概

説しました。顔魅力は、多様な要因から構成されるものであり、ここで列挙した以外の特徴や外的要因によっても変化します。そのため、瞬時に判断できる顔魅力は非常に複雑で多様な処理

に基づいているということができ、今後のさらなる展開が期待される学問分野であると考えられます。

(2023年3月31日受付)

### 参 考 文 献

- 1) G. Rhodes: "The evolutionary psychology of facial beauty", Annual Review of Psychology, 57, pp.199-226 (2006)
- 2) 藏口佳奈, 入戸野宏: "成人顔のかわいさ: 新たな魅力評価次元として", 心理学評論, 65, 4, pp.414-430 (2022)
- 3) B. Tiddeman and D.I. Perrett: "Moving facial image transformations based on static 2D prototypes", Proc. 9th Int. Conf. In Central Europe on Computer Graphics, Visualization and Computer Vision 2001, Pilsen, Czech Republic (2001)
- 4) L. DeBruine: "debruine/webmorph: Beta release 2 (v0.0.0.9001)", Zenodo, <https://doi.org/10.5281/zenodo.1162670> (2018)
- 5) M. Spape, et al.: "Brain-Computer Interface for Generating Personally Attractive Images", IEEE Transactions on Affective Computing, 14, 1, pp.637-649 (2023)



くらぐち かな  
藏口 佳奈

2015年、京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。追手門学院大学心理学部特任助教、大阪大学大学院人間科学研究科助教を経て、2023年より、四天王寺大学人文社会学部社会学科講師。京都大学人文社会学部社会学科講師。専門は、実験心理学、知覚・認知心理学、顔魅力知覚・認知。博士(文学)。